

## (8) 中筋中学校

学 校 長 山脇 克仁  
校内研究代表者 宮本 教子

### 1. 研究主題

『 課題意識を持ち、主体的・対話的に学び合う生徒の育成 』  
～見方・考え方を働かせた授業づくり～

### 2. 主題設定の理由

昨年度は、「中学校組織力向上のための実践研究事業」を通して「教科の枠を越えた授業力向上のためのチーム会の体制づくり」を行い、週1回のチーム会を中心に「見方・考え方」を働かせた授業づくりについての取組を行った。その結果、各教科において、めあて・課題の明確化が図られるようになり、生徒の主体的な活動の場面が増えるなど、一定の成果が見られた。また、昨年度は中筋小学校と連携して系統あるカリキュラムづくりを行い、合同校内研修を通じて一定の教科領域に関する小中職員同士の共通理解が深めることができた。

しかし、小中通して行っている「学習リーダー・ST (studentteacher)」の活用の徹底等が十分に行えておらず、生徒同士の深い思考・学び合いには至っていないという課題がある。本校生徒の課題である、「根拠を明確にした表現する力」を伸ばすためには、教師が学び合いの方向付けを的確に行うことや、さらなるSTの活用について改善を図る必要がある。

また、チーム会で進めてきた、見方・考え方を働かせた授業づくりの取組は、めあて・課題の明確化にはつながったが、「どのような」見方・考え方を「どうやって」課題解決に活用し表現させるかを今後も検討していく必要があると考え、今年度は小中共通した上記の副題を設定し、見方・考え方を働かせた授業づくりの取組を中心に授業改善の取組を行うこととし、研究仮説を以下の通り設定した。

(研究仮説) 思考場面や観察場面において、各教科の特質や学年に応じた見方・考え方の視点を示せば、自ら考え、課題解決に取り組む子どもを育てることができるであろう。

### 3. 研究の進め方と方法

#### (1) 研究方法

##### ①授業改善の取組

- (教科)
- ・研究仮説に基づく授業改善の取組
  - ・Student Teacher (ST) の活用
  - ・チーム会 (教科間連携) による授業研究及び新学習指導要領の研修
  - ・改善プラン、講師招聘による研究授業 (各教科担当)
  - ・授業づくり講座・拠点校等の視察による研修と共有
  - ・大学院派遣教員による授業公開・伝達研修等

- (特別の教科道徳)
- ・年3回の全校道徳及び、TTによる授業づくり
  - ・講師招聘による研究授業

- (総合的な学習の時間)
- ・探求・思考ツール・地域連携等の研修

##### ②小学校からの系統立てたカリキュラムづくり、授業づくりの取組

- ・小中合同校内研修 (二部会) における生活支援と算数・数学の系統の研究と実践
- ・小中授業参観交流における教科の研究 (各学期)

##### ③生徒理解・特別支援の取組

- ・巡回相談等

(2) 研究体制

- ・チーム会 週1回（教科間連携による新学習指導要領を踏まえた授業づくり）
- ・二部会 月1回（学力向上部会 生活支援部会）
- ・小中合同校内研修 学期2回（学力向上部会 生活支援部会）

4. 研究の内容

(1) チーム会及び二部会による授業改善の取組

①週1回のチーム会の実施

チーム会を週時程(火曜日)に位置づけ、毎週1回のチーム会を実施した。学習指導要領解説の読み合わせをもとに、生徒につけたい力の共通理解を図った。

②チーム会での指導案検討

改善プランや研究授業等の指導案検討を行い、授業でつけたい力が明確かどうか、ねらいに迫れているかどうかを図り、授業改善に役立てられるようにした。

③二部会での授業改善の取組

2か月に1度程度の部会及びカリマネミーティングを実施した。部会ごとに総合的な学習を軸としたカリキュラムマネジメントについての話し合いを行った。

(2) 主体的・対話的な深い学びの実現に向けた授業づくり・授業改善

①ST(Student Teacher:教科担当生徒)を活用した主体的・対話的な授業力の向上

STの効果的な活用や見る視点・考える視点を示す授業などを共通の視点としてチームで授業づくりを行い、主に5教科を中心に、主体的・対話的な深い学びの授業に向けた授業改善を行った。また、学力向上部会においてSTの活用方法を検討し、全体共有を行うなどの取組を行った。

②研究推進校等の視察研修・伝達研修等

拠点校や、推進校の視察にはほぼ全員の教員が分かれてできる限り参加し、その後の共有を職員全体に図り、研究の進め方の見直しや、改善に役立てた。

③道徳教育研究の実施

板書の記録やワークシート等の統一事項を全校で共有し、評価についても研修を行い、学年部で協力して評価を検討するなどの取組を行った。また、全校道徳を学期に1回取り組んだ。チームごとに指導案を検討し、指導主事を招へいし研修を深めた。

STの活用について 確認事項

2020.12.2 学力向上部より

	全教員で取り組むこと	目的と効果のキーワード (規制「教育課程の実施と学習評価」) 主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善より	生徒につけたい力
1	前時の振り返り・復習のときはST中心。	・生徒が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動	これまで学習したことを生かして主体的に計画を立てる力
2	子どもが考えたい課題 題解決型の課題	・学習の対象となる物事を捉え思考する ・主体的に挑戦してみる	自分の意思で目標をもって解決に取り組む力
3	何に注目したらいいのかを確認させて、ST中心にめあてを設定。	・生徒が自ら学習課題や学習活動を選択する機会 ・自主的・自発的な学習 ・知識を相互に関連付けてより深く理解	課題を設定する力 これまで学習したことを生かして主体的に計画を立てる力
4	全体共有の進行はSTを中心に行うが、教師が介入し、軌道修正・価値づけ・深めさせる。	・主体的に挑戦してみることや多様な他者と協働することの重要性などを実感しながら理解する ・情報を精査して考えを形成 ・問題を見出して解決策を考える ・思いや考えを基に想像したりすることに向かう	異なる意見や他者の考えを受け入れ尊重しようとする態度 情報の収集の手段を目的に応じて選択する力 情報を比較したり選択しながら分析できる力
5	学んだことをもとに、STが中心となりまとめる。	・生徒が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動	より伝わる方法を選択し、工夫してまとめることができる力

(3) 小中連携の取組

①小中合同校内研修の実施

小中合同学力向上部会では、若手教員が講師となって動画等を活用し見方・考え方の研修を行ったり、オンラインでの兵庫県の石堂教諭の研修会を実施したりする取組を行った。また、小中の共通の課題である算数・数学科の関数領域における系統一覧表を作成し、小中の系統性を確認



し、小中を通してつきたい力を共有した。

生活支援部会では、児童生徒の情報共有を行い、小中合同でのエンカウンターや交流行事を企画し実施した。

② 小中授業参観交流の実施

研究授業や改善プランの授業参観交流以外にも小中授業参観交流週間を実施した。共通の参観シートを作成し、参観の視点を決めて年間を通し小中の教員が互いの授業を参観し合い、小中の系統立てた授業づくりを意識するよう取り組んだ。

5. 今年度の成果と課題

(1) 成果

- 小中連携では参観交流を定期的に行うことで、小中校種の違いがある中で、互いの授業に取り入れられる気づきをもつことができた。特に今年度はコロナ禍の中、人との接触を極力避けるため、オンライン研修等を活用する場面や、児童生徒の交流をこれまでと違った形で進める場面などがあり、工夫して教育活動を行うことができた。
- チーム会を定期的に行い、教科間連携の取組を通して、教科を越えたねらいやつきたい力の理解が図られ、ねらいの明確化につながった。他教科の授業を参観する視点を持つことで、自分の教科の授業づくりに役立てることができた。
- S Tの活用では、S Tが活動する場面を教員間で共通理解を図ったことで、生徒自身が見方考え方を働かせて学習していくためのめあてを生徒主体で立てられることが定着した。そのことが生徒に主体的に学習に取り組む道筋を意識させることにつながり、学びに向かう意欲につながっている。県学力定着状況調査の自校採点結果からは、全体的に市・全国平均以上を示しており、学力の定着が見て取れる。

(2) 課題

- ◆授業力チェックシート（教師用）結果では、「学習のまとめ・振り返り」と「有用感が持てる評価問題」「他教科との関連」の3項目が他の項目に対して低い数値であった。授業時間内でのまとめ・振り返り時間の確保や学んだことの日常生活の活用等の改善が課題である。今後もチーム会で検討し取組を行っていく。
- ◆小中連携においては、算数・数学の一領域のみだけでなく、小中を通した「見方・考え方」の理解も含め、他の教科間の連携も充実させる。また、今後のICTの活用についても小中で連携を図り系統性を持たせた取組を行っていく。
- ◆S Tの活用については、各教科の特性や単元に応じた活用の仕方を、今後も全教員で研究を深めていく。

2020年度 中・小・中学校数学・関数（変化と関係）分野

学年・内容	関数に関する用語・記号	図解に使用する言葉	算数的な視方・考え方 (関数・変化と関係・領域)	
小1	長い針 短い針 ~時 ~分 距離 たぬい mm cm m かさ ml dl l	比べる 等し取る いくつ分多い 少ない 広い 予想する ~ではかると ~であらうと ~と同じように ちよつどの時刻をもとに考えると 見直しを行う 量で g kg t はかり ~に注目すると ~同士を~する		
小2				
小3				
小4	積 割合 ともなう変わる量 上のもなう変わる 数量の関係 口、口を用いた式	もとなう変わる大きさ ~を1とみたとき、~に当たると は、~である。 倍で比べる 口が口の何倍か	押って変わる二つの 数量やそれらの関係 に着目	変化に対応する特徴 を見いだして、二つの 数量の関係を表 す式を用いて考察 する力
小5	比 最も単純な比の関係 単位量あたりの大きさ 比べられる量 もとにする量 速さ、道のり、時間、百分率 線グラフ、円グラフ	もとなう変わる大きさ ともなう変わる二つの量の関係	押って変わる二つの 数量やそれらの関係 に着目	変化に対応する特徴 を見いだして、二つの 数量の関係を表 す式を用いて考察 する力
小6	比、比の値 比、比の値、反比例 定比例	a:bの比の値 等しい比、比を既約にする 比の一方の量(全体の量)を1とみる 部分と全体の等しい比 yがxに比例する	押って変わる二つの 数量やそれらの関係 に着目	変化に対応する特徴 を見いだして、二つの 数量の関係を表 す式を用いて考察 する力
中1	変数、yはxの関数である。 定数、yはxに比例する。 y=a×x、比例定数、x軸、 y軸、直線、原点、x座標、 y座標、直線、yはxに反比例する、 y=1/x、双曲線	押って変わる、変数、yはxの関数である。 定数、yはxに比例する。 y=a×x、比例定数、x軸、 y軸、直線、原点、x座標、 y座標、直線、直上がり、直下がり、 yはxに反比例する、y=1/x、 双曲線	数量の変化や対応 に着目	関数関係を見いだ し、その特徴を表 す式、グラフを用 いて考察する力
中2	yはxの一次関数である。 y=a×x+b、変化の割合、 xの増加量、yの増加量、切片、傾き	yはxの一次関数である。 y=a×x+b、変化の割合、 xの増加量、yの増加量、切片、傾き、	関数関係に着目	関数関係の特徴を 表し、グラフを用 意に関連付けて考 察する力
中3	y=a×x^2、yはxの2乗に比例する、放物線 y=a×x^2	y=a×x^2、yはxの2乗に比例する、放 物線、x軸に対して対称、下に開く	関数関係に着目	関数関係の特徴を 表し、グラフを用 意に関連付けて考 察する力

